



つれづれ時事寸評 7

海外メディアを通じて見た 東日本大震災

カーク・マスデン

情報のグローバル化が進み、インターネットや衛星放送を通じて、日本にいながら、海外で日本関連のニュースがどのように伝えられているかが容易に確認できるようになってきました。東日本大震災の後に、前から予定していた旅行で海外に行きましたが、旅行中にはゆっくりとメディアを観察することができず、むしろ海外のメディアと日本のメディアとの違いがもっとも気になったのは、両者を楽に比較できる日本に戻ってからでした。このエッセーでは、海外のメディアと日本のメディアを交互に見ている間に気づいた次の三つの違いを紹介したいと思います。

1. 海外報道の中には驚くほどお粗末なものもあった。
2. 情報開示が不十分であるとの指摘が海外メディアに多かった。
3. 日本のメディアより、海外メディアの方が原発事故前の管理体制や原子炉設計上の問題に触れることが多かった。

一つ目のお粗末な報道については、アメリカのFox Newsとオーストラリアの9NEWSの誤報を紹介しましょう。まず、Fox Newsが3月14日に放送した番組では「SHIBUYA-EGGMAN」という名の「原発」が日本全国の原発の位置を示す地図に載っていました。場所は、TOKAIとHAMAOKAの中間にあたる東京です。実は、こうした名の「施設」は東京にあります。ウェブサイト(eggman.jp)

を見れば「原発」ではなく、ライブハウスであるということがわかります。どのような経緯でこういう間違いをしたのかがわかりませんが、全国の原発を示すはずのこの地図には玄海原子力発電所などが載っていないことから、資料作成のずさんさがうかがえると思います。

Foxの例もひどいが、9NEWSは更に大きな過ちをおかして、しかも筆者からの指摘にもかかわらず未だにウェブ上の記事を訂正していません。この記事によると、「巨大な津波が西日本熊本県の菊池市を襲った」となっており、根拠となっているのはTeNYテレビ新潟の報道からYouTubeにアップロードされた動画です。動画は「宝来館」の女将が懸命に津波から逃げようとしている様子を撮ったものですが、「宝来館」でネット検索をしてみると、岩手県の釜石市にも、熊本県の菊池市にも「宝来館」という名の旅館があることがわかります。どうも、9Newsでは動画が撮影された場所を特定するために「宝来館」でネット検索をして、トップ検索結果の「西日本の熊本県菊池市」をそのまま記事にしたようです。

二つ目の情報開示については、事故直後には、日本政府などが適切に情報を出していないという主旨のコメントをアメリカなどの報道で聞くことがときどきありましたが、当時私はこうしたコメントに対していらだちを感じていました。どのような情報を非開示にしているかに関する具体的な説明もありませんでしたので、日本語もできない、日本をろくに知らないが、震災報道をするために日本に駆けつけた記者が、日本語で発表されている情報を裁ききれず、「日本=秘密主義」という固定観念だけでこういうコメントをしてい

たのではないかと思いました。しかし、後から首相官邸での記者会見から外国人記者やフリージャーナリストが排除されたという報告を読み、この不信感の背景が少し見えてきたような気がしました。

3月11日を境に、首相官邸などで行われた記者会見から、記者クラブに所属しない外国人記者やフリージャーナリストが排除されたことをはじめて知ったのはCPJという報道の自由を保護しようとする組織のサイトでした。*The New Yorker*などが掲載した上杉隆というフリージャーナリストとのインタビューがCPJの取材のきっかけになったそうです。上杉氏によると、3月11日までは記者クラブに所属していなくとも、官邸での記者会見に出席することができたのに、災害が起きてから外国人記者などが閉め出されたそうです。これが事実だとすれば、外国人記者たちの日本政府等に対する不信感を増幅させた原因になった可能性が高いのではないかと思います。風評被害などにつながる否定的な報道を最小限にするための措置だったとすれば、むしろ裏目に出たのでしょうか。

原発事故前の管理体制や原子炉設計上の問題については、原発事故の当初から海外と日本の報道のギャップが気になりました。例えば、事故直後に、アメリカの原子力専門家とのインタビューをネット上で聞いていたら、福島原発はもともと設計上電源喪失に陥る危険が高いということが、1990年に、アメリカの原子力規制委員会(NRC)の報告書の中で指摘されていたことがわかりました。ちなみに、この記事きっかけに「電源喪失」をキーワードにネット上で検索していたら、2006年の3月1日の衆院予算委員会で日本共

産党の吉井英勝衆院議員が、今回実際に起きたような事故の可能性に関する質問に対して、「そういったことはあり得ないだろうというぐらいまでの安全設計をしている」という政府答弁が行われたことを知りました。また、ネット情報で読んだ英語の新聞記事を通して、田中三彦が、1974年に日立製作所に勤めていた際、自ら福島第一原発4号機の格納容器にある製造欠陥の隠蔽にかかわった経験などから、原発の安全管理のずさんさを岩波新書の『原発はなぜ危険か—元設計技師の証言』などで訴えてきたことがわかりました。こうした「想定外」とは異なる、事故前から指摘されていた問題を検証する報道がいろいろあって当然だと思いますが、日本のマスコミはこうした問題をほとんど追求していないのではないのでしょうか。

外国に関する報道をする際、多くの視聴者はそれほどの知識もありませんし、スポンサーなどがその伝え方について抗議をしたりする可能性が比較的低いと思われれます。そのこともあって、Foxや9Newsは日本関連の報道にあまり力を入れずに、呆れるほど低いレベルの過ちをおかしたと思います。しかし、逆に、視聴者やスポンサーからいろいろなクレームがありうる日本国内の問題に関する日本のメディアがいつもベストであるとは限りません。呆れるほど初歩的な過ちはしないでしょうが、スポンサー等からの反発を恐れて、「無難」な内容に偏りがちになると思います。これは、日本のみならず「国内報道」にありがちな弱点です。皮肉に思われるかもしれませんが、自国のことを深く知るためには海外のメディアもしっかりチェックする必要があると思います。(本研究所研究員 教育学)